

南国市キーマン！
(医師会副会長)



多職種連携の糸紡ぎは、仲人のようなもの

1. 関係者の合意形成
2. 集いの場づくりと顔が見える関係づくり
 - ◆ 研修会や事例検討会の開催
3. 互いの良さを知る
4. 信頼関係ができる

◆片山尾道市医師会長講演 (平成20年11月15日)



薬剤師
2名

住み慣れたところで 自分らしい最後を迎えたい

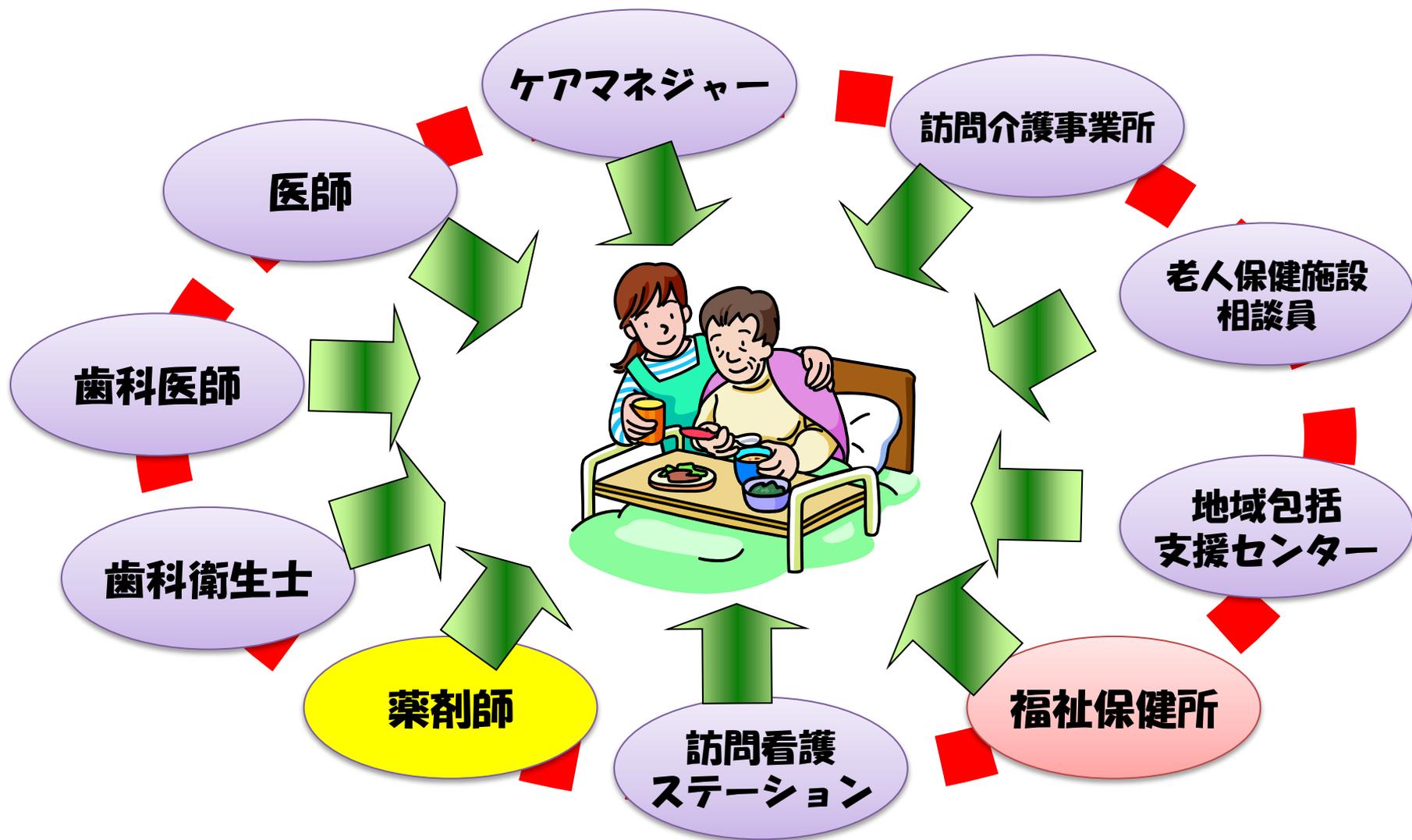
多職種チーム

片山先生

患者と家族

写真は尾道市医師会ホームページより

患者さん本位の多職種・多機関連携



◆尾道市立市民病院 地域医療連携室 魚谷看護科長講演（2月11日）



薬剤師
1名

◆地域連携に関する勉強会

- 日時 平成21年6月19日(金)
- 場所 南国市保健福祉センター
- 内容 ①土佐長岡郡医師会の地域連携の取り組みについて

②意見交換

- 医師会主催の勉強会として開催

- 参加者(53名) **4名**

- 医師・歯科医師・**薬剤師**・MSW・ケアマネージャー・ホームヘルパー

- 各職種から連携に関する「**思い**」が聞かれた



模擬退院前カンファレンス



| | |
|-------|-----|
| 医師 | 7名 |
| 歯科医師 | 2名 |
| 薬剤師 | 6名 |
| 看護師 | 6名 |
| ケアマネ | 20名 |
| 病院相談員 | 11名 |
| その他 | 16名 |
| 計 | 68名 |

名刺交換も大切です



多職種連携の糸紡ぎは、仲人のようなもの

1. 関係者の合意形成
2. 集いの場づくりと顔が見える関係
3. 互いの良さを知る
 - ◆ 餅は餅屋を知る
4. 信頼関係ができる



そうか！
こんな困り事は
薬剤師さんの力を
借りれば
いいんだ！！



◆多職種キーマンと一緒に尾道市を視察

日程

平成20年12月3日~4日

視察場所



尾道市立市民病院

尾道市医師会訪問看護ステーション

居宅介護支援事業所

尾道市地域包括支援センター

ねらい; キーマンが具体の成功イメージを持つ

広島県尾道市

- ・ 尾道方式における退院前カンファレンス

京都府長岡京市

- ・ 在宅療養手帳委員会

新潟県上越市

- ・ ケアマネ連携広場

当所の考え方

百聞は**一見**にしかず

本物を見る

衝撃を受ける

明日への
モチベーション

包括ケアマネが、尾道での 薬剤師の活躍を視察して**感激**

- 退院前カンファレンスに**病院薬剤師**と**在宅側の薬剤師**が一緒に参加していた
- 患者の状態にあわせた薬の形状・飲ませ方についての情報のやりとりを**他の職種**がいる前で堂々で行っていた
- 地元でこれまでも退院前カンファレンスに出席したことはあるが、そのような光景は**初めて見た！**

在宅における薬剤師の役割は、理解されていないのが普通！

3市の包括支援センター情報交換会を開催 薬剤師と包括をつないだ

- ・ 県内で**熱心に活動している薬剤師**を把握
管内の専門職にその思いを伝えたい



- ・ 地域包括ケアネットワークの**要である包括支援センターが**、薬剤師とケアマネ等の他職種との**連携推進の要になるべき**
- ・ まずは、包括のスタッフに、在宅での薬剤師の役割を勉強してもらうため、**3市包括の情報交換会を主催し薬剤師を講師に招聘**

3市包括が、それぞれケアマネ情報交換会 に薬剤師を講師に招聘

- ケアマネは、**認知症**高齢者の増加に伴い、在宅では**薬をいかにきちんと飲んでもらうか**が大問題になっていた
- **それぞれの**包括が「自分のまちのケアマネに**薬剤師との関わり**を持ってほしい」と考え、独自で開催している**ケアマネ情報交換会に薬剤師を講師として招聘**
- ケアマネの在宅における**薬剤師の役割理解**が進んだ

◆事例検討会（薬剤師から）

大学病院
薬剤師

事例提供者
薬剤師

■ 内容

① 在宅での薬剤師の関わりについて

発表者：くろしお薬局

② 事例検討

事例提供者：くろしお薬局 十市店

（工夫をした点）

在宅での薬剤師の関わり方のイメージを他職種の参加者に持ってもらううえで、薬剤師からの提供事例によるディスカッションを行う

■ 参加者

7名

医師・薬剤師・看護師・医療相談員・ケアマネジャー等

開局
薬剤師



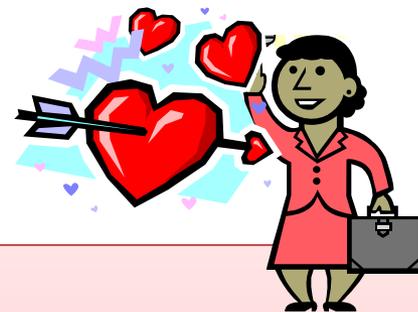
➤ 医師の薬剤師の理解が進んだ

- 薬剤師の在宅側での関わりを初めて聞き、目からうろこが落ちた！
- 薬剤師の力を借りたい患者がいても、今までどう指示を出せば良いか分からなかった。話をきいてクリアになった！

多職種連携の糸紡ぎは、仲人のようなもの

1. 関係者の合意形成
2. 集いの場づくりと顔が見える関係
3. 互いの良さを知る
4. 信頼関係ができる

◆餅を食べてみて美味しさを体感する



さすが！！
薬剤師さんに
相談してみても
良かった！



最近の地域の反応1

■ 医師

- 多職種での退院前カンファレンスを院内に取り入れた
- 書式を作成、事前に情報提供を行うことにより、カンファレンスが短時間でできるようになった
- 患者さんの安心感が違う

■ 病院相談員

- 15分カンファレンスを参考に20分でカンファレンスを行った。事前の準備が大変だったが達成感を感じた。

■ ケアマネジャー

- 最初は連携なんて無理だと思っていたが、最近では自分たちが頑張ればひょっとしたらできるかもしれないと思い始めた
- 医師との垣根がなくなってきた
- 他の職種と顔見知りになって連携が取りやすくなった

最近の地域の反応2

■ 地域包括支援センター

- 同じ場所に色々な人が集まること大きい
- 違う職種どうしが分かりあおうとする機運ができた
- 連携のあり方を地域の多機関・多職種で共有することができたため、具体のケースについて相談があっても助言しやすい
- 勉強会等のおかげで具体的・実用的なアドバイスができる
- ケアマネが他職種を尊重し、「餅は餅屋に信頼してお任せする」「分からないことは聞く」ことができた
始めた
- 勉強会等に参加し得たことがケアマネに活かされているのが実感できる ケアマネの意識が変わった

どのようにして？（まとめ）

□ 県としての組織的な対応

- 保健所の組織体制
- **保健医療福祉推進会議**の設置（組織団体トップの合意）

□ 地域資源の実態把握と情報提供

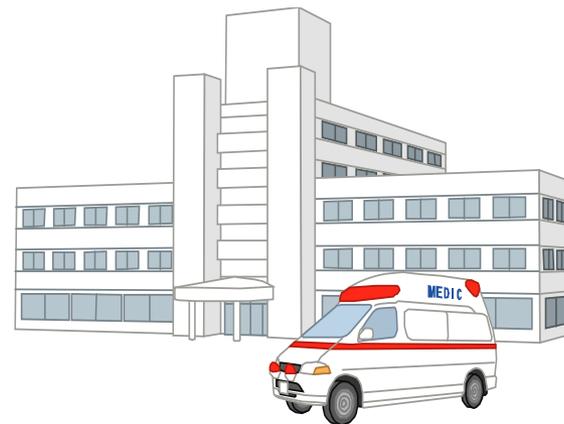
- 南国市をモデルに、地域ケア体制整備の**県単補助金**
- 尾道の医師会長等の講演会。他職種キーマンと一緒に尾道を視察。連携の**キーマンのモチベーション**が向上
- 医師会主導で勉強会、事例検討会を継続する中で、**顔の見える関係、餅は餅屋**の理解が進んだ

- 保健所は、**仲人役として裏方・黒子に徹する**

おまけ

地域ケア以外でも
薬剤師会との連携
が進みだしました

**本格的な外部支援が入るまでの
市町村の医療救護所等における**医薬品と薬剤師**の確保**



薬剤師会支部

市町村

被災を免れた地元の調剤薬局の薬と薬剤師を調達

禁煙支援対策体系図

禁煙サポーター7名

